

未だに語り継がれるスニーカー史における負の遺産

“AIR MAX 狩り”のリアルを知る

SFB 2024の養頭特集では主に80年代から90年代にかけて開発された、NIKEのスニーカーテクノロジーにスポットライトを当てた。実用面だけでなくデザイン性も兼ね揃えた当時のハイテクモデルは、90年代後半にハイテクスニーカーブームを巻き起こしただけでなく、現代のスニーカーヘッズの感性をも刺激し続けている。90年代に一世を風靡したムーブメントの功績は、今後も復刻スニーカーと共に語り継がれるのだろう。

もっとも90年代におけるハイテクスニーカーブームの記憶は、決してポジティブな話題だけでは無い。現代のファンを悩ませる高額な“プレミア値”というスニーカーの販売形態が定着したのもこの時代だし、初心者には見分けが難しい精巧なフェイク（偽物）がマーケットに根付いたのも90年代のことだ。そしてもうひとつ、都市伝説のように語り継がれている90年代のネガティブな話題が“AIR MAX 狩り”である。NIKEのアイコンモデルであるAIR MAX 95 “YELLOW GRADATION”が復刻される度に、SNS上で“AIR MAX 狩り”のワードを目にするのもお約束だ。

ただ、その知名度が高い割りに「どうやってAIR MAXを狩ったのか？」等のリアルなストーリーを目にする機会は少ないのが正直なところ。そこで本コラムでは、90年代後半にスニーカーを扱うセレクトショップのオーダー兼バイヤーとして活動していた筆者が、実際の被害者から聞かされたリアルな“AIR MAX 狩り”についてお伝えする。実際に狩りの現場に居合わせた話では無いものの、当時高校生だった被害者が被害にあう以前はAIR MAX 95の“赤グラデ”を所有していた事は間違いないので、恐らくリアルな話だと個人的には考えている。

本題に入る前に、WEBで検索可能な“AIR MAX 狩り”について補足しよう。実はWikipediaにも「AIR MAX 狩り」のページが存在する。Wikipediaでは事件の概要がシンプルにまとめられているのだが、注目なのは新聞記事を引用

